

失敗 ひないの畳えらび

— イグサの話をしよう —

舞 うわあ！これはまた、すごく立派な草の束ですねえ！

穴 この草の束は、イグサを収穫したものなんですよ。生産者さんが田んぼで大切に育てたイグサを一本ずつ織機にかけ、丁寧にゴザを織り上げていくんです。

舞 へえ！イグサってこんなに長いんですか。背丈も僕と同じくらいありますし。よく見ると、なんだか凛とした佇まいたてまつりが、まるで力士みたいですね(笑)

穴 (笑)全てのイグサがこんなに長いわけじゃないんですよ。これは今日のために取り寄せた、特別に長いイグサのみを選別したものです。このように長いイグサの、栄養がしっかりと行き渡った真ん中の部分だけを使用して作ったゴザが、表皮が厚く丈夫で、均一に美しいアメ色に変化していくと言われています。ほら、草の先端は細いし、先が既に枯れて茶色くなってきてるでしょう。

舞 ああ、本当ですね。と言うことは、もしも短いイグサでゴザを作ると、どうしてもこういう細くて先枯れた部分も混ざってしまうわけですか。

穴 そのとおりです。畳の良し悪しは、イグサで決まると言っても過言ではありません。厳密に言えば、単純に「長ければ良い」というわけでもないんですが、短いイグサを使用したものは表皮がむげやすく、黒いスジが出てきます。あとは、一枚のゴザに使用されるイグサの本数ですね。本数が少ないものは足触りも悪く、早く擦り切れてしまいます。

舞 「丈夫で、色変わりが良い」畳のヒミツは、材料であるイグサの質にあるんですね。

穴 収穫したイグサの中でも、特に長いものだけを最初に抜き出して選別した、混じりつけないものを「一番抜き」と呼んでいるんですが、私の加盟している畳生活提案協同組合では、この一番抜きの草を惜しげもなく使って織り上げたゴザをオススメしています。

舞 いま持つてらっしゃる、そちらの畳についているゴザが「一番抜き」のイグサを使用しているのですか？

穴 ええ、そうです。風合いがなんとも言えないでしょう。「大地の恵」と生産者さんの「愛情」が込められた天然素材を使って畳を作れることが、我々職人の喜びです。

舞 このイグサが、最終的に僕等が和室で使う畳になるんですね。自然のものだからこそ、ピンからキリまでグレードがあるんだと納得しました。「イグサは一番抜き！」これ覚えておきます。本日はどうもありがとうございました。



工場長 菊池 信一

八王子で33年
安心のISO認証取得工場
(株)あなみず
代表 穴水 美樹

舞の海 秀平さん

Q どのような畳表(ゴザ)を選べば、「丈夫」で「色変わりが良い」畳になるのですか？

A お答えします。決め手は材料のイグサにあり！「一番抜き」を選ぶのが正解です。



良い畳は、ムラなく美しいアメ色に！



普及品は、皮むけや黒スジが...